

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572510618		
法人名	株式会社福わらい		
事業所名	グループホーム鳥海		
所在地	秋田県由利本荘市鳥海町下笹子字田中61-2		
自己評価作成日	令和6年2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和6年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道108号線沿いに面した田畑や四季折々の山々に囲まれ、ゆったりとした環境です。季節に応じた行事計画を行い、集団・個別での対応をおこなっております。必要に応じて眠りスキャンを活用し、眠りの状況を確認しながら、ケアにつなげるようにしております。また、6S活動の推進と社内研修の充実、入居者様がより快適にすごしていただけるよう、環境整備と人材育成に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

往復2時間かかる医療施設に通院している利用者が増えてきている現状だが、ご家族の協力や職員の勤務時間体制を見直しながら職員の付き添いを継続し、個々の利用者が適切な受診を受けられるよう取り組まれています。感染予防対策として玄関には手洗い場所が作られており、現在は面会も利用者の居室でできるようになり喜ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) <input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) <input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) <input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) <input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) <input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30) <input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) <input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) <input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) <input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	株式会社福わらいのビジョンを念頭に、地域に根差したサービスを提供できるよう努める。グループホーム自体の理念もスタッフと共有しながら、サービス提供させていただく。	自分の家と同じように暮らすことができるようにと、理念を共有しながら支援されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の理容店より出張していただいたり、店に足を運び、店の方や他のお客さんとの交流をもつことができている。	町内会長や行政協力員に事業所の広報を渡したり、散歩時には地域の方と挨拶を交わしたりして交流を続けています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進委員会に出席していただいている、市役所職員、町内の会長さん、行政協力委員さんにを通し、発信している。広報活動等。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その場でいただいたご助言をもとに、サービスに反映するよう努めている。	出席者それぞれの立場から意見をいただき運営に活かせるように取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉事務所職員、介護保険の認定調査員、運営推進委員会に出席頂いている市職員が来所された際に行っている。	定期的に福祉事務所職員と連携、またグループホーム協議会の関係者とファックスで情報交換行っています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等適正化のための指針に基づき、行っている。また、虐待防止マニュアルに基づき、行っている。	定期的な会議の中で、動画を見ながらの勉強会などで共通認識し、拘束や虐待のないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて行っている。以前、利用されていた方が、日常生活自立支援事業を利用されていた。現在、利用中の方も必要があれば、利用を視野に入れる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定があった場合は、入居者様、御家族同意の上、一部は御家族に保管していただく。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	入居者様は日常のケアの中から、御家族は面会や電話を通じて、全体会議で検討し運営に反映させている。	面会も居室で可能になり、話しやすい雰囲気づくりに心がけ要望や意見を話していただけるよう努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	スタッフとの個人面談、全体会議、リーダー会議などで把握し、反映するよう努めている。	全体会議などで意見交換し、勤務体制を見直したり、備品の購入などの事例もあります。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への登録を行っており、必要に応じて交流することができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回相談時や入居時にご本人の意向を聞き取り、ご本人が安心してより快適に過ごしていただけるように関係づくりに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様同様、意向を聞き取り、関係づくりに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の日常生活に寄り添わせていただきながら、食事やレクリエーションを一緒に行ったり会話をしたりして関係づくりに努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会を通じて家族の絆が継続できるよう情報提供し、関係づくりに努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	なじみの人との面会が継続できるようなかわりの場を提供。	以前からの行きつけの床屋さんに行ったり、働いていた頃の同僚の面会も居室でできるよう支援されています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規の方が入居されても安心して過ごしていただけるようなテーブル配置。お互いに声掛け合う姿がみられる。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に紹介後も相談を受け付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議を通じてご本人の意向を把握し、満足した生活ができるよう努めている。困難な場合はご家族に相談し把握する。	日常の関わりの中で何気ない会話、入浴時などに聞くこともあり伝達ノートなどで共有し支援しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回相談時や入居時にご本人の意向を聞き取り、把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ケアカンファレンスやサービス担当者会議での意見をふまえ、個人に対するサービス内容がくまれた介護計画の作成に努めている。	介護計画作成担当者に日常の状況報告、また ケース記録・家族の意見も取り入れられ現状に即した介護計画が作成されています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しに生かせるように個別記録の整備をしている。また、プランの実践状況のチェックも行っている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、医療機関、社協などの協力を得ながら、快適な生活ができるよう支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に応じて入居前のかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。	遠方の数カ所の病院へ通院している利用者が多いが、家族の協力もいただきながら職員が付き添い、適切な医療が受けられるよう取り組んでいます。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護配置はないものの、スタッフが情報共有して、適切な受診ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要があれば、病院主催のカンファレンスに参加し、状況に応じた対応を行っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス担当者会議を通じて話し合い、必要に応じて支援させていただく。	看取りはしていないため、重度化になったときはかかりつけ医や関係者と連携しながら、家族が安心できるように支援しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は電話の傍の対応マニュアルに従い、行動するようにしている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。また、地域にも呼びかけしているが協力体制とまでは繋がっていない。	夜間・日中想定で避難訓練を実施しています。避難所の公民館の設備も確認しています。	今後、水害・地震災害時に対して訓練を予定しており、推進会議などを通じて地域の協力体制を築くように期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と考え、常に学ばせて頂く姿勢を心掛ける。研修等の参加も行っている。	一人ひとりの生活歴などを考慮しながら、利用者の気持ちに添った対応を心がけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整髪、男性であれば髭のそり残しがないか確認させていただく。外出の際は余所行きに着替えていただく。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の説明、食事前の口腔体操、一人一人の状態にあった座席の配置、テーブル拭きや可能な限り下膳を行っていただく。職員と一緒に皿を拭くなど。	当日は地域の食材をふんだんに利用した食事が提供され、職員も同じ内容で利用者と一緒に静かな雰囲気です。おやつレクリエーションや行事食など利用者と共に楽しんでいます。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表をもとに不足な方は追加して摂取していただくよう努めている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕食後に実施している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせた対応をしている。夜間にベット上でパット交換がひつような方がいらっしゃるが、その他ポータブルトイレやトイレで行うことができる。	一人ひとりの身体機能を考慮しながらの用品の使用、トイレ排泄を基本に適切な声かけをしながら、少しでも自立に向けた支援を実施しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事提供の際に乳製品を提供している。また、ラジオ体操や軽運動を行っていただいている。水分量をチェック表にて確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯は決まっているものの、その時に入れなかった場合は、曜日をかえて対応している。	香りや、浴槽のお湯の色を楽しめるよう、様々な入浴剤を使用し喜ばれています。入浴を拒否される方には日時や職員を替えたりしながら週2～3回入浴できるよう支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯寝つきの悪い方は、可能な限り日中に離床して活動していただく。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングし全スタッフがいつでも目を通して把握できるよう努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に考慮し、キッチン作業、洗濯作業を継続していただいている。飴玉や宝くじの購入。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様1人につき2-3か所の病院にかかっている状況のため、その他の外出支援がままならない状況。	受診を通しての外出が多い現状だが、天気の良い日には散歩したりして外気に触れる機会をつくっています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じて所持されている		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には掲示物で季節感が味わえるよう工夫している。	全館床暖房であり、足下からほんのりと温もりが感じられる事業所です。居室には加湿器が備えられています。所内は清潔で掃除も行き届いており居心地の良い共用空間となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所は居室以外にはないが、ホールでは気の合った入居者様同士で思い思いに過ごされるよう配慮している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで準備したベット以外は出来る限り、入居者様が使い慣れたものをそのまま使用させて頂いている。	利用前の生活の延長を基本に、本人の希望や身体機能に応じたベットや家具類の配置など、安全に配慮した居室となっています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所には手すりを設置し、浴室では滑り止めマットを使用している。個々のベットは高さ調整し、立ち上がりがスムーズに行えるよう配慮している。		